

## 青少年読書感想文 全国コンクール入選



第66回青少年読書感想文福島県コンクールで、齋藤さんの作品が約5万5,000点の中から特選に選ばれ、全国コンクールに推薦されました。全国でも入選した齋藤さんの声と作品をご紹介します。

読んだのはこの本!



しっばいにかんぱい!

運動会で失敗し落ち込む達也のお姉ちゃん。そんなときおじいちゃんから食事に誘われ、親戚みんなの失敗談で盛り上がり…。「失敗は誰にでもある」と温かく受け止められる作品。

発行所：(株)童心社  
作：宮川ひろ  
絵：小泉のみ子

※伊達市立図書館（本館、保原、霊山）で貸出中!

**Voice\*** 全国コンクールに選ばれた時の気持ちを教えてください。ドキドキしました。家族もみんな嬉しそうでした。

本を読むのは好きですか？

好きです。今は「さんねんないきもの事典」を読んでいます。

3年生になったら何がしたいですか？

理科で実験をしてみたいです。

将来の夢はなんですか？

美容師さんになりたいです。

月舘学園小学校 2年  
さいとう あまね  
齋藤 天希 さん

しっばいにかんぱい!  
しっばいするのは、いやだな。しっばいしないようにしたいな。わたしは、いつもそう思っています。だから、「しっばいにかんぱい！」なんて、ありえないと思いつきながら、本を読み始めました。  
びっくりしたのは、みんな、いろいろなしっばいをしていました。わたしも、パジャマをたたむのをわすれたり、水と水をスクールバスの中におきわすれたり、いろいろなしっばいをしていたので、なんだかちよつとあん心しました。それに、しっばいすることは、わるいことだと思っていたけど、それでもなくて、いいこともあるということがわかりました。らんぼうな大きくんが、本当はやさしい子だとわかったこと。よの中には親切な人がいるとわかったこと。わたしは、今まで、しっばいするのがっかりするだけでした。でも、いいこともたくさんあったのかもしれないと思えてきました。そのことに今

まで気づかないできちゃったんだと思つたら、なんだかそんをした気分になりました。  
大人も子どもも、だれでもしっばいすることはあります。しっばいするのがなくなったり、ごはんをおいしくたべられなくなったりします。でも、しっばいしたことでもいいことがあったり、しっばいしたことでもわかつたことがあったりと思つたら、しっばいもこわくなくなります。そして、しっばいしたことをつぎに生かして、同じしっばいをしないように気をつけたり、がんばったりすることがだいじなんだと思います。そうすれば、しっばいもいつかいい思い出に変わります。しっばいは、わたしがこれから大きくなつていくための「えいよう」みたいですよ。  
「しっばいをだいじにして、大きくなつてくれよ。」  
おじいちゃんのことをわすれずに、わたしもしっばいをおそれずにがんばります。  
「しっばいにかんぱい！」

## ざぶん賞 2020 ざぶん大賞受賞

生命の源である水や海のテーマを通じて、命や自然の大切さを考えてもらうことを目的とした「ざぶん賞」。全国6,652点の応募の中から大賞を受賞した小野さんの声と作品をご紹介します。



茶わんと水

ざぶん賞は、小中学生の作品に大人が創作を加え、アート作品を返します。

多くの作家の挿絵などを手がけるイラストレーターの蓬田やすひろさんが、小野さんの作品をアートに仕上げました。

**Voice\*** 大賞を取った気持ちを教えてください。

驚いたと同時に、とても嬉しかったです。

アート作品を見た感想はいかがですか？

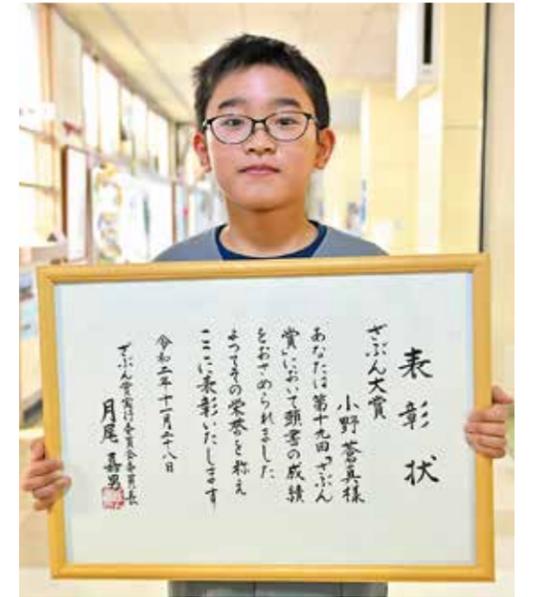
僕が書いたとおりに表してあってすごいと思いました。自分の部屋か、おじいちゃんちに飾りたいです。

昔の人の生活を知って、変わったことはありますか？

普段の生活の中で水を使いすぎないようにしています。

将来の夢はなんですか？

車が好きなんで、車を作る仕事につきたいです。



伊達小学校 4年  
おの そうま  
小野 蒼真 さん

茶わんと水

ぼくは、いつもふしぎに思っていることがあります。おじいちゃんの家にとまりに行くとき、おじいちゃんとおばあちゃん、ひいおばあちゃん、朝ごはんの最後に牛にゆうを飲みます。その時、かならず使い終わつたご飯茶わんに牛にゆうを入れます。なつとうを食べた時でも、そのまま牛にゆうを入れて飲んでいきます。ぼくは、どうしてコップを使わないのかな、変な味にならないのかなと、いつもふしぎに思っていました。  
先月、おじいちゃんの家にとまった後、お母さんにどうしてなのか聞いてみました。お母さんは、「わたしが小さいころから、おじいちゃんたちはそうやって飲んでいたな。」と思いついて、「昔は、今のような水道はなかったから、井戸や川の水を使っていたんだよ。茶わんを洗うのも大変だったから、使う食器の数を少なくしたり、茶わんのよごれを落としたりするために、牛にゆうを入れて飲んでいたんだと思うよ。」と、教えてくれました。

した。ぼくは、そんな理由があったのかとおどろきました。そして、水を使うりょうをへらすための工夫だったのだと分かり、おもしろいと思いました。  
ひいおばあちゃんが若かったころは、箱せんという物を使っていたそうです。一人一人に小さな箱のテーブルがあり、茶わんや汁わん、皿、はしがセットになっていたそうです。食器は三日に一回くらいしか洗わなかったようで、食器をきれいにするために、最後にたくあんやよごれをとって食べて、お茶を入れて飲んでいたので、ぼくは、少しきいたなと思つてしまいました。今は食器は毎日必ず洗い、機械で自動で洗うこともできます。でも昔は水を自由に使えなかったんで、色々な工夫をして、水を大切に使用していたのだと分かりました。  
ぼくは、水を使えることは当たり前だと思つていました。でも、これからは昔の人の工夫を思い出したり、少しまねをしたりしてみたいです。そして、水を大切に使えるようになりたいと思います。